

村山市歴史文化基本構想

－概要版－



村山市
平成31年3月

1 歴史文化基本構想ってなに？

構想策定の背景

村山市は、市の東西を分けるように最上川が北流し、東の甕岳・西の葉山の麓で、市を構成する8地域がそれぞれに地域色豊かな文化を育み、歴史を刻んできました。これまでの営みの中で残されてきた伝統や文化財は、地域にすむ私たちのかけがえのない財産です。

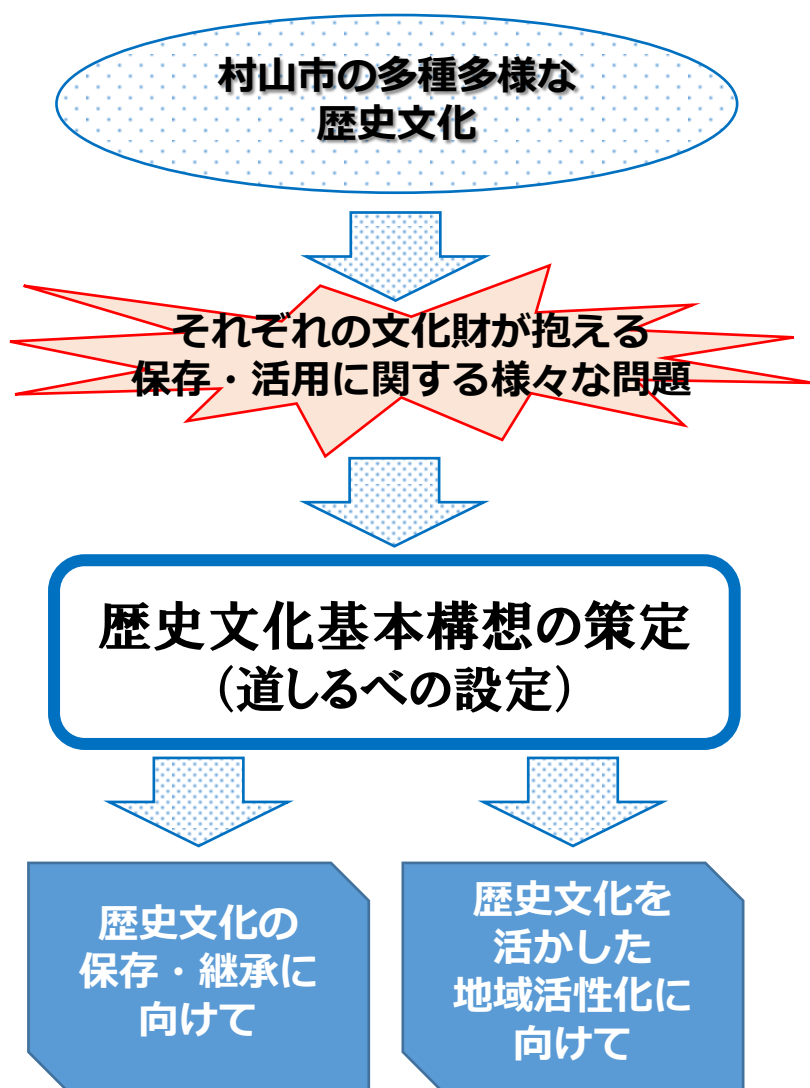
しかし近年、少子高齢化など人口減少や社会様式の変化などの影響で、文化財の保存・継承に携わる人材の不足や地域の歴史文化を語り継ぐ人材の高齢化など、歴史文化を取り巻く環境は厳しさを増しており、これをどうするかが課題でもありました。

歴史文化基本構想とは

「歴史文化基本構想」とは、地域に存在する文化財を、幅広く捉えて、文化財を周辺環境まで含めて、総合的に保存・活用するための構想で、地方公共団体が文化財保護行政を進めるためのマスタープラン（基本となる計画／道しるべ）となるものです。

村山市では、抱えている課題に応え、各地域の歴史文化の特徴と価値の再認識を図ると同時に、地域の活性化や地域への誇りを持った人材の育成に繋げていくことを目的に、平成29～30年度の2か年をかけ、構想の策定に取り組みました。

村山市歴史文化基本構想では、「**甕岳と葉山のふもとに広がる最上川東西の歴史文化の保存と活用**」を**基本理念**と定め、歴史文化・文化財の保存・活用と、その基礎となる調査に関する方策をまとめています。今後の文化財保護行政は、この基本構想に沿って進んでいくこととなります。



策定により期待される効果

この構想は、市内の文化財を総合的な観点から保存活用していくためのものであり、策定及び策定の過程で、次のような効果が期待されます。

- ・地域の文化財の持つ多様な価値の顕在化
- ・文化財を核とした地域の活性化
- ・地域や関係機関との保存・活用に向けた連携協力の推進

現状と抱える課題

市の文化財には、人口減・高齢化による後継者不足や管理に関わる負担の増加、情報発信方法の改善など保存・活用に向けての課題が多くあります。また、その前段としての調査に関しても、継続的な調査事業が行われていない等、体制の整備が求められています。

課題

- ・文化財等の継続的な調査研究・保存・活用の検討
- ・人口減、高齢化による担い手や後継者の不足
- ・文化財管理に係る実務的・費用的な負担増
- ・計画的な文化財情報の把握と情報公開
- ・文化財を守り活かす担い手や団体等の育成と連携

調査・保存・活用の推進に向けた取り組み

1) 地域にある文化財の総合的な把握

市民や学校が中心となり、勉強会や講演会、地域巡りなど実施し、地域にある文化財を総合的に把握します。行政は、仲間づくりや学習機会の創出を行います。

2) 地域文化財の魅力を分かりやすく整理し「関連文化財群」を設定

地域文化財の素材を整理し、関連する文化財を線から面へとつなぎ、個々の文化財の魅力に付加価値を付けるようにします。

※関連文化財群については後述

3) 担い手育成を含めた次世代への継承

周知のためのイベント開催や市民・子どもキュレーター（学芸員）の認定など、担い手育成を含めた次世代へ継承する仕組みづくりを行います。

4) 文化財保存・継承・活用の推進と保有者・保存団体への支援

専門家・学識経験者等の指導助言を得ながら、文化財の調査研究を継続し、アーカイブシステムの整理蓄積等を行います。

5) 専門的知識を有する職員の育成と配置

防犯・防災の体制づくりなど適切な業務が遂行できるようにするとともに、継続的に専門的な知識を有する職員配置の検討を行います。

6) 市民・企業・民間団体等の歴史文化活動支援

文化財を観光振興や地域活性化に活用できるように、サイン計画やデジタルアーカイブの有効活用、補助金の交付などの支援を行います。

7) 観光客増加を図る取り組み

観光アプリの充実や情報発信を行うと同時に、民間団体や企業などによる文化財を活用したパンフレットや商品の開発を促します。

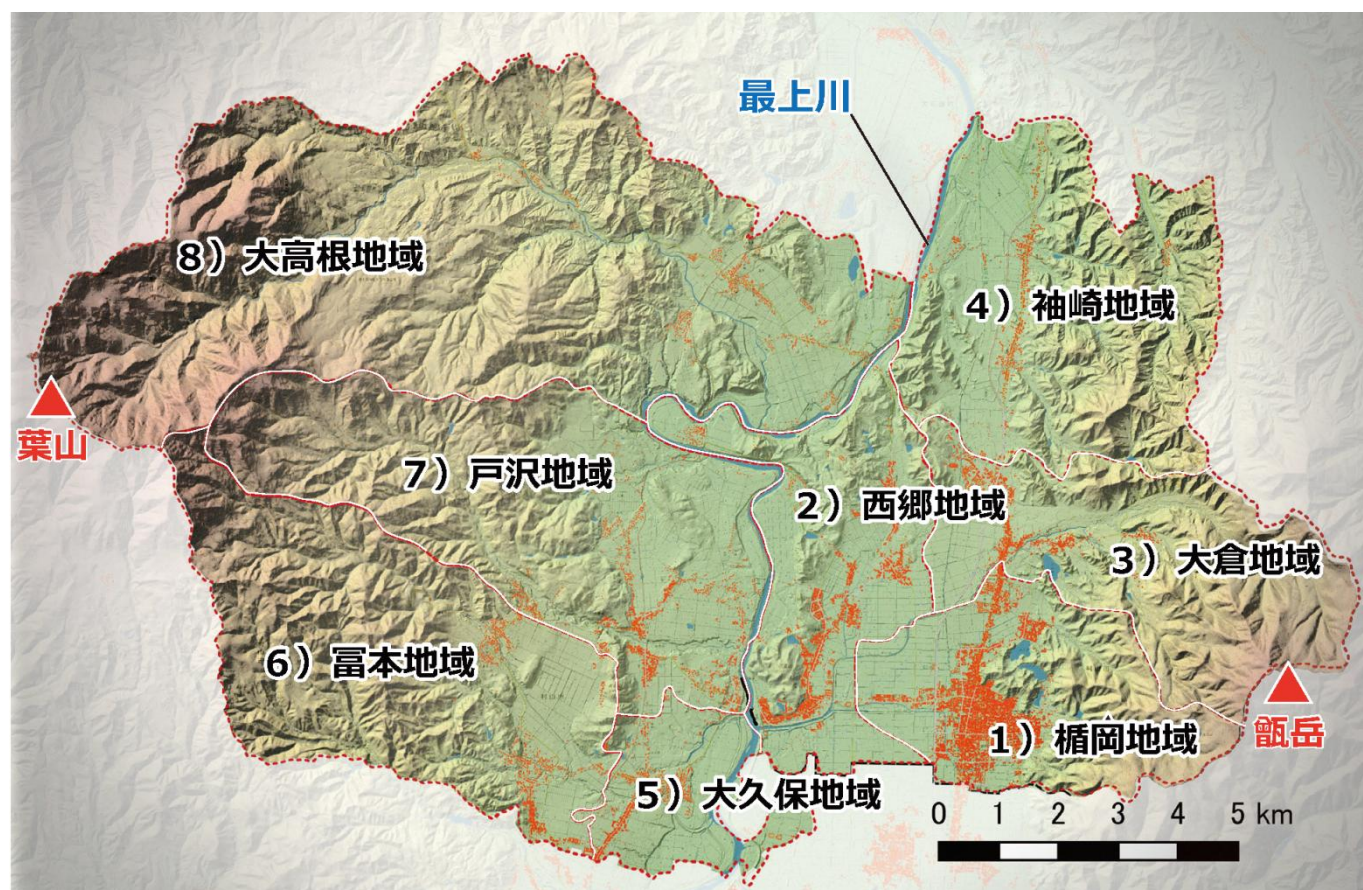
成り立ちと周辺環境からみる村山市の特徴

村山市の歴史は最上川と深い関係にあります。市の東側を縦断する羽州街道や西側の西部街道と合わせ、人や物資が多く行き交う中で発展してきました。さらには、甕岳・葉山に代表される山々への信仰や最上川三難所などの自然環境も地域の歴史に大きく関わってきました。

市内の8つの地域は、それぞれの成り立ちから独自の歴史と文化が紡がれ、現在の地域の特色として受け継がれてきました。

以上から、**村山市の歴史文化の特徴**は次のようにまとめることができます。

- ①最上川で東西に分かれ、それぞれ発展してきた歴史
- ②羽州街道や舟運を通した人々の交流の歴史
- ③葉山と甕岳に代表される信仰の歴史
- ④特徴的な景観を含む豊かな自然が育んだ歴史



これまでに構築された村山市の歴史文化のイメージ

上でまとめた村山市の歴史文化の特徴以外にも、市民の皆さんが日頃から興味関心を持っていることや行政による施策の一環として取り上げられてきた歴史的要素も数多く存在しています。

偉大な北方探検家・**最上徳内**や居合道の始祖・**林崎甚助重信**を輩出したまちであることや蕎麦に代表される**食文化**、県指定史跡の**河島山遺跡**などが挙げられます。

成り立ちから導いた歴史的特徴に加え、市民に根付いている歴史的要素を組み合わせ、**村山市の歴史文化のイメージ**として、次の8つに整理しました。

村山市の歴史文化 8つのイメージ

i. 最上川がつなぐ舟運と歴史

最上川の流れるは古代から利用されており、経済や生活に密接に関わった水上交通の大動脈でした。市内に点在する三難所をはじめ、村山市の歴史に大きな影響を与えています。



ii. 城楯跡と羽州街道が語る要衝の地

古くから村山市は村山地域北部の要衝の地として、人々の交流が繰り返されてきた土地でした。市内には街道の名残や城跡などの史跡が多く残されています。



iii. 山岳信仰ゆかりの葉山と甕岳

村山市の東西にそびえ立つ甕岳と葉山は、東西の霊峰として、それぞれが山岳信仰の対象とされてきました。山麓には寺社仏閣や石碑など、両山ゆかりの修験道の名残を見ることができます。



iv. 最上徳内とシーボルト

記念館や祭りの名称として市民に親しまれている最上徳内。北方探検家やドイツ人医師・シーボルトとの関わりなど、多岐にわたり活躍したルーツが、ここ村山市楯岡にあります。



v. 河島山古墳と多彩な考古遺跡群

原始から中世にかけての複合遺跡とされる河島山古墳をはじめ、円墳としては日本海側で最北に位置する名取古墳、古代の村山駅の可能性が示唆される清水遺跡など、多くの遺跡が分布しています。



vi. 受け継がれる民俗文化と郷土料理

それぞれの地域で独自の踊りや民俗文化が育まれ、最上川三難所そば街道に代表される食文化が残ります。その土地に根付いた様々な文化は、現代の私たちの生活にも息づいています。



vii. 抜刀術の技と心・居合道発祥の地

現在は武道のひとつとして、多くの人に親しまれている「居合道」。漫画等のサブカルチャーでも人気の居合ですが、村山市が発祥の地とされています。



viii. 四季が育む多様性豊かな自然環境

肥沃な大地と四季が彩る里山が織りなす豊かな自然、それらが育んだ動植物の多様な生態を見ることができます。最上川を始めとする景観は市の魅力のひとつとなっています。



4 関連文化財群の設定と活用

関連文化財群とは

関連文化財群は、文化財を有形・無形、指定・未指定を問わず、地域に存在する様々な文化財を歴史的・地域的関連性（ストーリー）に基づき、一定のまとまり（群）として捉えたものです。従来の文化財保護制度では保護の対象となりにくかった、単体では価値を明確にできなかった文化財も、群として一体的に捉えることで、それぞれの文化財が持つ価値を再認識することが可能になります。

村山市にも、これまでの文化財行政の中では対象となっていないような文化財が各地域に点在しており、また歴史文化のイメージとして整理した8つの要素の中にも、ストーリーへと繋がるキーワードが多く含まれています。市内の文化財を関連文化財群として包括的に整理することで、文化財の再評価・再認識を促していきます。

この構想では、関連文化財の一例として「最上川」を取り上げています。今後、関連文化財群については、村山市の歴史文化をよく表している等の複数の要素を考慮したうえで、村山市にふさわしいテーマ設定をしていきます。

関連文化財群の一例 ―最上川に関する関連文化財群―

山形県の約8割を流域とする最上川は、古代律令国家の「水駅」から近代初頭に至るまで交通の大動脈でした。舟運の発展と共に、流域の各地域は最上川の流れによって互いに結ばれ、酒田湊を介して上方(京都)と直結したことにより、流域の経済や生活に大きな影響を与えました。江戸時代の「諸国産物見立相撲」には、「阿波（徳島）藍玉」とともに「出羽 最上紅花」が東西の関脇として並んでいます。日本海側の西回り航路で上方へと流通する一方で、茶や瀬戸物等とともに、雛人形等の上方文化が内陸まで伝わりました。

村山市には、松尾芭蕉の『おくのほそ道』にも「ごてん・はやぶさなどと云おそろしき難所あり」との記述がある三難所をはじめ、難所を見守る神社への信仰や難所を利用した漁猟に関する文化財等が多く残されています。

最上川に関する関連文化財群とそれぞれの文化財

最上川舟運の歴史と三難所

船着場跡・番所跡と二軒屋・破船記録・荷揚げ鉤棒・羽黒神社・最上川絵図

最上川と文化

雛人形・蔵座敷・おくのほそ道・古今和歌集東歌・最上川の絵画

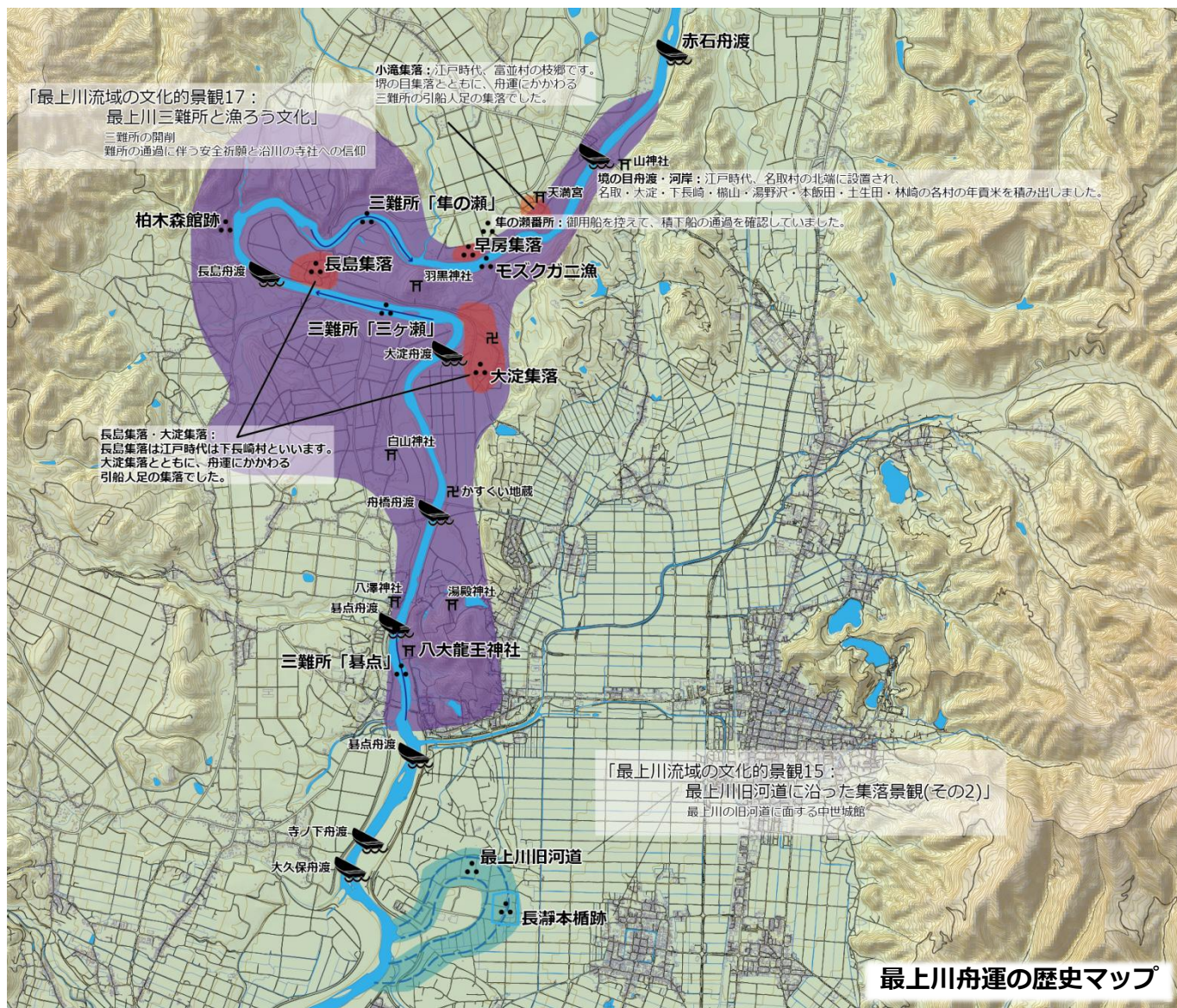
最上川と橋・観光

渡し場と船・碁点橋・三ヶ瀬橋・最上川三難所舟下り・大淀ビューポイント

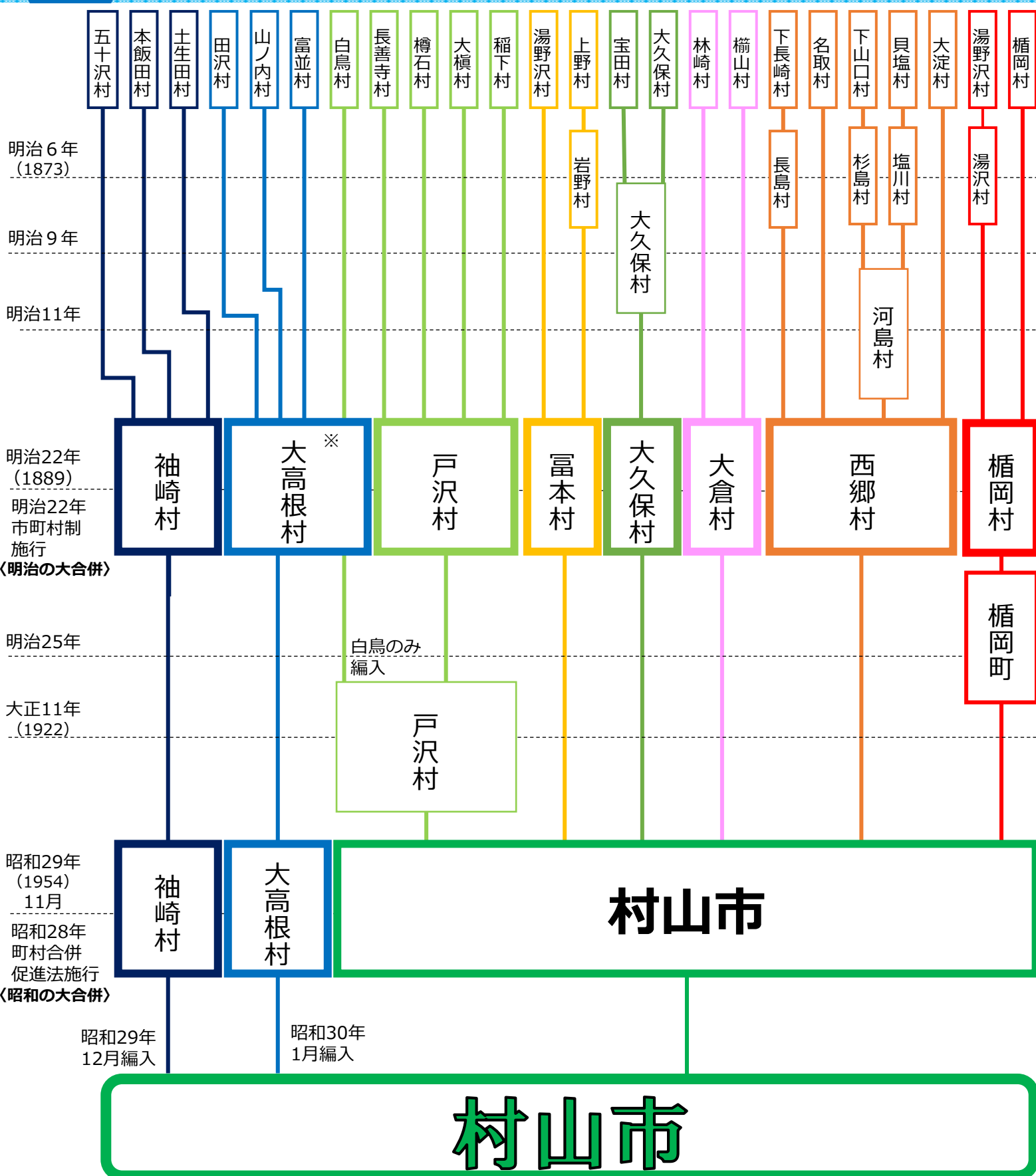
最上川と治水・灌漑用水

大久保遊水地・記念碑・大旦川排水施設・水門・北村堰揚水所

最上川舟運の歴史マップと流域の文化財



村山市域の町村変遷の流れ(明治以降)



※横山村も含む。横山村と田沢村の一部は明治34年に分離して横山村（現大石田町）に編入した。

発行・編集 村山市

(担当) 村山市教育委員会 生涯学習課
〒995-8666 村山市中央一丁目3番6号
TEL : 0237-55-2111 (内線333)
FAX : 0237-55-2155



この構想は平成29・30年度文化芸術振興費（文化遺産総合活用推進事業）の補助事業として策定を行いました。